

協議員から出された意見

第10回協議会

議論の項目、順序（進め方）について	
江崎協議員の資料	
主張	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで出た意見は、論点毎（P I 外環沿線協議会の位置付け、P I の方法、交通 [地域、広域]、効果と影響 [地域、広域]）に整理して議論していくべき。 ・打合せ会は、協議員の間情報に格差ができてしまうので、望ましくない。 ・グループワークは、議論の内容にもよるが、まだ早い。 ・席順は、いろいろな方々と隣り合わせになると、お互いの理解が進んで話し合いがスムーズにいくのではないか。 <p style="text-align: right;">（江崎協議員）</p>
栗林協議員の資料	
主張	<ul style="list-style-type: none"> ・「P I 協議会の進め方」、「外環道路の必要性」、「自然環境等への影響」を今後の話し合いの中で議論されるべき。 ・地域単位で、協議会メンバー、関係自治体、専門家なども加わった地域P I 会議を進めることを提案する。 <p style="text-align: right;">（栗林協議員）</p>
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・議論は、41年度の経緯、道路交通の問題・谷原の現状、外環の必要性の有無の順に議論していただきたい。 ・次回の議論について、運営委員会などで決定をして進めたらどうか。 <p style="text-align: right;">（濱本協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を1つ1つ確認し、討論をし、結論を出していくというのが一番大事なこと。 ・議題を整理して、順番、討議のやり方を協議会の中で有志のメンバーで決めるべき。 <p style="text-align: right;">（新協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会の運営や進め方については別の懇談会などで決めて、協議会ではテーマを絞って議論をすべき。 ・委員全員に呼びかけて、懇談会形式でやってみたらいいのではないか。 <p style="text-align: right;">（柴田協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会みたいなものを設けて、議論の中身と順番を決めていくことが必要。 <p style="text-align: right;">（栗林協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原点論について論議をした上で、運営委員会などの論議の仕方は考えるべき。 ・運営委員会について、誰がどのように委員を選ぶのかなど、慎重に決めるべき。 <p style="text-align: right;">（武田協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で、テーマを絞り込んだ形で、議題を整理して皆さんに討議してもらおうべき。 ・メンバーはアンケート等で立候補してもらい、調整は事務局に任せる。 <p style="text-align: right;">（渡辺協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中立的な第三者の司会者のほうが、もっとスムーズにいくと思うので、もう一度考えていただきたい。 <p style="text-align: right;">（橋本協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けをして、整理したテーマを同時並行的に議論して、それで全体の討議にかけると分科会的にそのテーマを議論できると思う。 ・運営に関しては、協議員に事前に確認し、意見をいただいて事務局で整理して出すということをお願いしたい。 <p style="text-align: right;">（成田協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会、懇談会等、事務局で案を作って、各協議員に意見を伺うようにしていきたい。 <p style="text-align: right;">（伊勢田協議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性の有無と原点の2つを並行的にやるようなことではどうか。 <p style="text-align: right;">（大寺協議員）</p>

必要性の有無（効果と影響）について

伊勢田協議員の資料

主張

- ・「東京23区を走行する交通の内訳」、「環状8号線の交通量」について、走行量の算出手順は、道路交通センサスというもので各地点での交通量を把握しており、コンピュータの中でその交通の動きを再現するモデルを構築し、内々交通、内外交通、通過交通という3区分で集計した。
- ・埼玉外環の効果事例に関する補足として、1都3県の自動車交通の走行量は、60年度から11年度までの14年間では1.4倍に増加している。
- ・実測の交通量と道路交通センサス観測地との比較は、地点、観測日時も違うので一概には比べられないが、効果としては同様に出ていると考えている。
- ・「窒素酸化物・浮遊粒子状物質の削減量」は、走行量を推計し、走行量から走行速度をグラフから推計し、SPM、NOxの削減量を試算した。（伊勢田協議員）

意見

- ・予測の前提条件に問題があるのではないかと。誘発交通を加味されていないのではないかと。
- ・周辺道路の観測地点全部を足して平均したほうが、より公正な比較ができるのではないかと。もう一度出して見ていただきたい。（江崎協議員）

S41年都市計画決定時について

意見

- ・東京都長期計画（昭和38年）、基幹的重要事業実施計画（昭和41年）の外環に関連する部分を抜粋していただきたい。
- ・都計審の議事録、昭和41年4月22日から昭和41年6月6日まで4回にわたる議事録、都計審特別委員会の議事録、昭和41年5月23日から昭和41年6月3日まで3回の議事録の資料を提出していただきたい。（新協議員）
- ・東京都に関する長期計画の抜粋はコピー可能と考えており、議事録については情報開示の制度でありますので、閲覧は可能。配るのは無理。（宮良協議員）
- ・大臣の国会の委員会議事録を資料として要求します。（栗林協議員）
- ・都市計画審議会のメンバーとどういう方が賛成されたのか、反対したのか、どなたが欠席されたのかも聞きたい。（濱本協議員）
- ・41年当時の都市計画決定の法上のやり方の資料を出していただきたい。（倉田協議員）
- ・旧法の都市計画法と、現在の都市計画法のコピーをつけていただきたい。
- ・国土開発幹線自動車道建設審議会の議事録を出していただきたい。（武田協議員）
- ・谷原のつくられるときの住民と行政との話し合いの議事録、アセス関係の資料を出していただきたい。
- ・行政側の上の方々の考え方はどうなのか。原点から話し合いたいという我々の考えを伝えていただき、本気でやる気があるのか、ないのか出していただきたい。（濱本協議員）

その他

意見

- ・第三者機関である有識者委員会の話を聞いていると、国や都の応援団のように見える。（江崎協議員）
- ・PI協議会で原点に立ち戻って議論しようというさなかに、有識者委員会が見解を示して議論の方向を誘導しようというのは、理解に苦しむ。有識者委員会としての役割を認識した整理をしていただきたい。（柴田協議員）
- ・最終的には委員長あるいは委員の中での議論としてまとまってくる話だと思う。（大寺協議員）
- ・外環ありきという資料は有識者会議のために用意された資料ではないか。（濱本協議員）
- ・有識者委員会と協議会の関係が不明確。有識者委員会と協議会の正式な接点を持ってこなかった事が問題である。（栗林協議員）
- ・読売新聞等の問題については東京都の立場はきちんと鮮明にして頂きたい。（新協議員）
- ・PIの考え方について東京都は原点に立ち戻って、準備会の確認のようにやるのか。（濱本協議員）
- ・読売新聞の報道で、成田協議員が、「整理して話す」と発言しており、整理して話せるようになったかどうか。記事の都案というのは、都案として存在するのかわからないのか。（栗林協議員）
- ・PIに対する基本方針は国と変わらない。議論を行うため、昭和41年度の都市計画の議論、道路政策、道路のあり方について、行政の進め方の考え方を出している。
- ・新聞報道に関しまして、都知事が公の場である記者会見で否定しており、公式の見解です。
- ・ランプのありなしによっての戸数については、新聞報道された時点では、国から受けてない。（成田協議員）